

MeSo

医療の
仲間

Medical Care & Social Welfare

こんな楽しい 組合やったら

京都博愛会労働組合新人歓迎会



京都博愛会労働組合新人歓迎会をにぎにぎしくやりました!!

当日は、ブライトンホテルの超豪華な料理?

テーブル対抗「組合知ってますかクイズ」で

CDやフォトスタンドなど超豪華景品?

マッチャわかりやすい組合説明! でおお盛り上がりしました。

新人さんいわく「こんな楽しい組合やったら

すんなり活動に参加できそう!」と

うれしくもあり頼もしくもあり新人さんに触発され

もっともっと組合活動ガンバルゾ!!!

もくじ

- 2~3P 釜やんのデプレショッピング
- デプレってなに? 小泉流「改革」で
- 経済はどうなる?
- 4P
- 第4回MESO編集委員会合宿
- ハンセン病へのつきない思いにうたれ
- 5P
- てつまん先生の教育相談
- 6P
- 映画の窓「山の郵便配達」

待合室

アメリカの西部開拓史の時代なら、『縛り首』にあってもおかしくない犯罪である。それをなんだ! 容疑者の人権だ! それでは、沖縄県民の、女性の人権はどうなんだ! 我々も、米軍軍曹を衆人環視のもと、アメリカの歴史でおこなわれてきた『縛り首』にしてやる、ぐらゐの態度を露わにしてやるべきと思う。「親米派」をきどった小泉首相は、ブッシュ大統領に何も言わない・言えない。お前な!、それは親米と言わんぞ、属米と言っただぞ。隷属の属だ。変人小泉も、しっかりと属米自民党じゃないか。安保条約の地位協定の改善が、ようやく日程に上るかもわからない。でも何人の女性が傷つかなければ、ならないのだからか。地位協定の改定を問題にするよりも国会承認のもと、安保条約に基づいて、条約の『廃棄通告』をアメリカ政府にしてやる。ことがいちばんの近道に思えるのですが、どうでしょう。(恋)

ハイ、釜平です。
久々の平日休暇。ここは文化
的で且つ金をかけない1日をお
くらなくては。



ちょうどお昼時。平日半額のマクド
へ。ハンバーガーとチーズバーガー各
1個購入。消費税込み153円。



まず午前中に、京都市の図書館へ。
本3冊を借りる。これ全部無料ね。



釜平の
釜平の

デブレシヨッピング

次はウィンドウショッピング
ということで、100円ショップへ。様々
なプラスチック容器や細々した台所用品。これ
らが100円というのはまだうなずける。調味料100
円は、これは分量を小分けにしてるな。
しかしドライバーのセットが100円。ウーム
とうなってしまう。なにCDが100円で売っ
てるぞ。思わず手に取ってしまう。しかし
背景音楽だったり名もない楽団のクラシ
ック小品集だったり。まーこんなものか。
思わずにんまりしたのは、老眼鏡
が100円で売ってるぞ。これは
職場のKさんに言ってあげ
なければ。



タイの 3coins で アジアンステーショナルリーゲット!!

私もついつい衝動的にいらぬ物まで買ってしまふ<激安ショップ>。
今回はハッキン(100円ショップの略称)ならぬ3coinsのmade in
thailandの学習ノートとメモ帖と8色クレヨンをご紹介します。

Thailandに有る3coinsはその名の通り300円のshopでオシャレな物も
置いてあります。私がthailandへ旅行した時購入した写真の品物は、品質
はモロさがあるけど、それも又味が有って良いのです。絵を描くのが好
きなので落書きしたりお
天気良ければ木々の緑
に青空をスケッチしてみ
ても良いかな?

3coinsは懐かしい駄菓
子屋さんをも連想させて
くれます。さあ貴方は
300円で何を買います?
私はノスタルジックな思
い出を手に入れました。こ
れこそ究極のお得感で
は???



宇多野小町 ペンネーム(美人30代ナース)

デフレってなに？ 小泉流「改革」で 経済はどうなる？

世の中不景気です。マクドの平日半額にロッテリアが追随、吉野家のプライスダウンなど、生き残りをかけた値下げ競争も目につきます。政府は軽い「デフレ」といっています。日本経済の行方について神戸女学院大学の石川康宏先生に聞いてみました。

こんにちは。

よろしくお祈いします。「デフレ」というのは、生産に消費が追いつかないことによる物価下落のことです。通常なら各種業界には「暗黙の約束」があり、一定のライン以上に「値下げ競争」はしないことになっているのですが、個人消費の冷え込みでその「約束」を守ることができなくなっています。この値下げ競争は、土地代や原材料価格の低下とともに、少なからず人件費の節約によりますから、その点では国民の消費を引き下げる方向にはたります。こうした「値下げ 消費冷込み 値下げ 消費冷込み」の悪循環が「デフレ・スパイラル」と呼ばれる泥沼状態のことです。

なるほど「デフレ」は不況の深刻化をあらわすものなんでしょうね。

そうです。だからデフレ対策は「値下げ競争」の規制といった対症療法ではなく、いかにして個人消費を拡大するかという不況対策でなければなりません。日銀のアンケートなどでも、個人消費の拡大や経営の改善に必要な政策で第一の答えは「消費税減税」です。これに「年金など社会保障の充実」や「雇用対策」がならんでいます。ここに手を差しのべてこそ本当の不況対策といえるのです。

小泉内閣の経済政策はどうなっていますか？

「改革」といいますが、経済政策ではっきりしているのは森内閣からの「緊急経済対策」の「継続」だけです。しかも、これは大企業・大銀行支援にはなっても、国民支援にはなっていません。不良債権処理のためにまたしても公的資金を投入するというのですが、これは大銀行の無責任経営を助長し、政府の財政赤字を拡大するだけです。特にひどいのは大銀行への公的資金投入の条件が、大企業の借金棒引きと同時に、中小企業からの借金の徹底的な取り立てになっていることです。これは中小企業つぶしの政策としかいいようがありません。この中小企業つぶしが実施された場合、最大で130万人の失業者がふえるという試算もあります（ニッセイ基礎研究所）。不況解決に必要な個人消費の激励にキチンと焦点をあてることが大切なのです。

さーてと、今度は中古コミックショップだー。ここはよく利用する。文庫本が100円で手にはいる。今日は時間があるので、じっくり点検したが、めぼしいものがない。本をあきらめCDのコーナーへ。

ウーム、ShaZnaのアルバムが95円。オオ、チャゲ・アスのアルバムが100円だ！『GUYS』を100円でゲット。しかし、同じアルバムが別の店では350円だったぞ。



そろそろ腹が減ってきた。家の近くへ帰ってきて、養老の滝の生中100円セールだ。うまい具合に知り合いのグループがいたのでその席へ。生中1杯注文し、つまみはみんながたのんでいるのをつまむ。ここの費用も100円で済む。

さてと文化的な1日の締めくくり、映画を観ようとレンタルビデオショップへ行く。新作旧作オール1週間100円。

これで今日1日の経費はマクドが153円、CDが105円、生中100円、ビデオが100円。移動の手段は自転車だから無料。

締めて458円。



こうなる100円対する消費税5円がものすごく高く感じるし、同じ中古CDの1580円とかの値段が高いと思ってしまう。でも、こんなでいいのだから、星の目でも考えてしまおう。

長島愛生園をはじめて訪れたのは昨年の一二月、寒い冬でした。あれから半年が過ぎ再び愛生園を訪れることになった季節はもう夏。梅雨の合間、太陽の陽ざしは瀬戸の穏やかな海に乱反射してまぶしいくらいでした。

目的は、編集委員会の四回目の合宿、ところが思いもよらず国家賠償裁判が勝利したこともあって、療養者の皆さんがどんな思いでいるのか期待の再訪問となった。当日は民医労の青年も参加し、原告団長の宇佐美さんと再会するまでの時間を使って、再び島内を回ることとなった。島根や岡山から来ていた青年の見学者も多く、ちよつとした観光地の雰囲気に変化した。

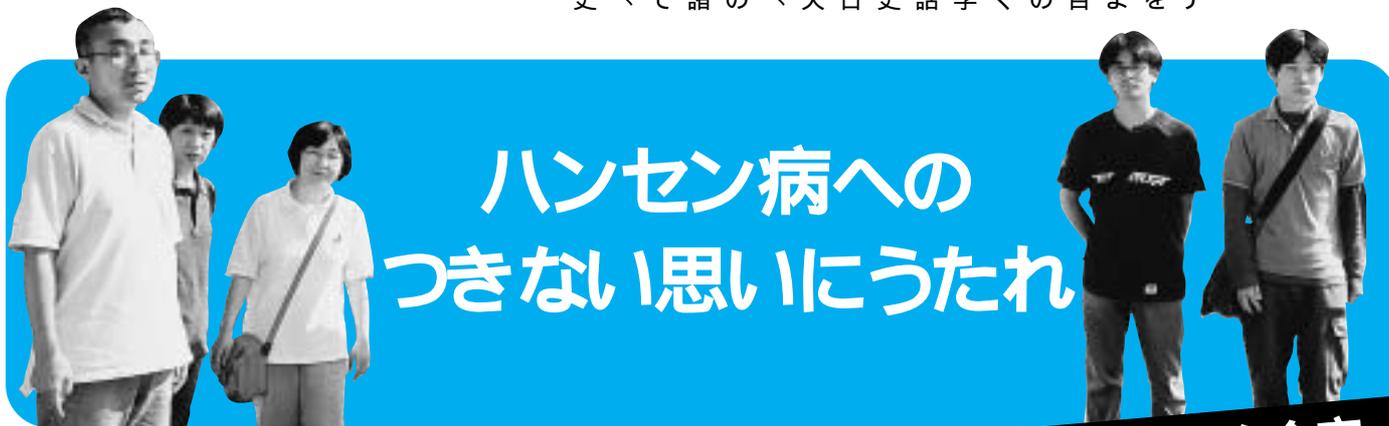
語りつぎな「らい」の歴史

夕方宇佐美さんの自宅を訪問

すると早速ビールとつまみがテーブルに並ぶ。あの判決後島を訪れる数が、大きく変わったよ。うで「今日、あなた達で四組目なんですよ」と少々疲れ気味の宇佐美さん。少し目も見えなくなつたようだったが、らい医学やらい患者の歴史などから、話が始まりました。「日本の歴史に『らい』が出てくるのは、日本書紀からなんですよ」、推古天皇の時代から大正・昭和へと、天皇家や寺社で『らい』がどのように扱われてきたか、なぜ諸外国に比べて長期間にわたって強制隔離政策が続けられたのか、京都にまつわる『らい』の歴史



「小豆島 見える視力が うらやまれ」
患者さんの川柳句碑



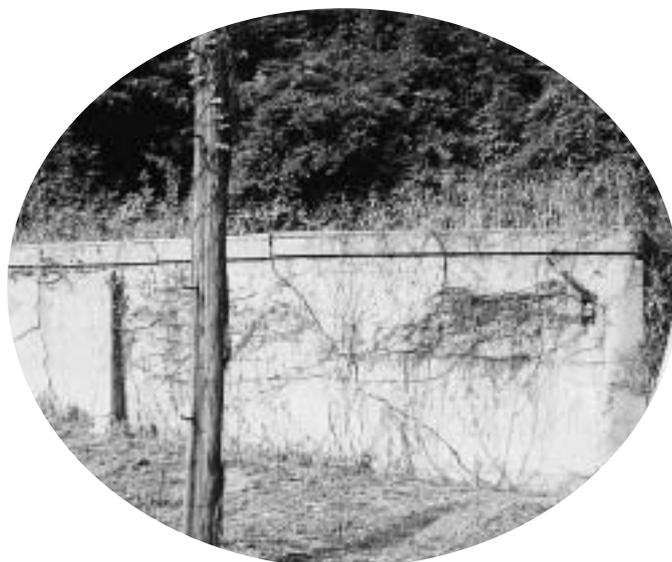
ハンセン病への つきない思いにうたれ

第4回MESO編集委員会合宿

など、その研究の深さに参加したみんなが感銘しきり。

遺骨をふるさとに
帰りたい…そして…

宇佐美さんに今回の判決についての思いを語ってもらおうと、「今回の判決は一里塚だと思っっています」「これからの目標について、「園に眠る遺骨をふるさとに帰すことやふるさとで共生でき安心して暮らせる施設をつくることです」と、そして、「補償金の一部を出し合っても、ハンセン病や人権を侵害された人の闘いの国際的な基金をつくりた



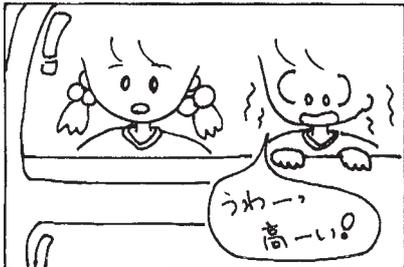
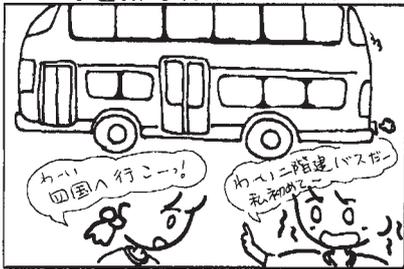
患者を収監した監房跡

いと思っています」と、つきない「らい」への思いが感じます。宇佐美さんが収拾した史資料を保存・展示している『恩賜（おんし）記念館』、立派な建物は患者さんが設計しみんなで建てたそうで、宇佐美さんの蔵書五〇〇〇点も含めて展示しているとあります。

「この薬棚もほかしてあったのを持って来たんですよ、ここのがラスケースもそうです」でも一つ一つが本当に貴重な資料だったんです。過酷な療養の歴史、差別の中でたたかかった患者達の思いを絶対に風化させてはならないと、そんな思いを胸にした再訪問でした。

がんばれ! さっちゃん...

二階建バスは初めて?! 系編 by たまご



はあかし...

入ってよかった 医労連共済 シリーズ



鹿児島・桜島を背景に



子供の頃、おじが乗っていた「陸王」にあこがれ、いつか「ビッグバイク」で颯爽と走ってみたいと思って

ていましたが、250ccやスクーターがせいぜいでした。50を過ぎてから、まだ体力のある今のうちに乗らなければという思いがつのり、家族の反対を押し切って2年前に1300ccを購入しました。ところが買って2週間後に転倒して肩鎖関節を脱臼してしまい、おまけに腰痛も出て、約半年間乗れないという散々な中年ライダーの誕生でした。(医労連共済会には、大変お世話になりました)

やっと乗れるようになってからは休みになれば、丹後半島や琵琶湖一周、少し遠いところでは鳥取砂丘や木曾の御嶽山など日帰りツーリングをしていましたが、なんとかロングツーリングに行きたいとの思いはつのであるのですが、組合活動もなかなか忙しくまとまった休みがとれないまま過ごしてきました。

今年の連休には、何が何でも実行しようと計画を進め、メーデーの夜、一度は走りたいと夢見ていた日南海岸と阿蘇山を中心にした九州へのツーリングに出発しました。堀切峠を登りきったところに広がる太平洋、夕日をうけて様々な色を見せる阿蘇五岳、そこを走るとき、まさに「風の中にある。」ことを実感しましたし、五木の子守唄で知られる五木村からひえつきの里椎葉村への緑の道等、九州のすばらしさを満喫できました。

夢見ていた九州ツーリング

京都医労連委員長 鷺見 敏夫

前号からの続き。

A それから2日して、母親から電話があり、父親と代わりました。父親はやや興奮した語調で『今朝は学校へ行く約束していたので期待していた。しかし早く起きはしたがぐずぐずして家を出ない。怒って問いつめたら『担任は、ボクが行くといわないとまた家へ来る。もう顔を見るのが嫌で『行く』といったんや』といます。思わず『この野郎』と息子をぶんなぐりましたんや。息子は下を向いて一言もしゃべらず、涙を流し、ふるえながらじっと耐えていたようです。私はちょっと哀れになって『なんでみんな行ってるのにお前は行けへんのや。』『親がこんなに心配してるのに、何でわからんのや!』と懸命に親の思いを告げたくです。子どもが動けないときに、親がちょっと、後ろから押してやるのが大事と違いますか?』

じっと聞き終わって私はこう述べました。

お父さん、親としての気持ちは痛いほどわかります。でも今の場合、『何で私の気持ち、わかってくれへんの?』と尋ねたいのは、子どもの方ですよ。

今まで友達や先生との人間関係に、さまざまなストレスを抱え込み、もうこれ以上「よい子」を通せなくなっている子どもの苦しみこそ、親は分かってあげるべきです。友達はみんな登校して勉強しているのに、なぜ自分には行けないのか。あぁボクは駄目な人間なんだと自分を責め、追いつめているではありませんか。

てつまん先生の

教育相談



不登校の中二男子 力づくでも行かせようとする父親 お前が甘いと責められ苦しむ母親

親としてできることは、先生と連絡をとり合い、登校催促を一切やめること。子どもには、行きたくなければ行かなくてよい、家でゆっくりと休み、不安やストレスを解消するよう温かく見守ってあげることです。子どもは、やがて動きだし、自立への道を歩み始めます。

親として不安でシンドイ時期ですが、子どもを信じて「待つ」ことが唯一の解決法です。

父親は「そうですか」と、やっと落ち着いた声を出しましたが、「そんなことでよいのか?」という不安が、こちらにまで伝わってくるようでした。

映画の窓

『山の郵便配達』

中国 一九九九年

激しい雨はその土地に何ももたらしません。静かに降る小雨こそが、その土地に潤いを持たせ豊かにしていくのです。この映画には激しい刺激的な場面はいっさいありません。静かに心に染み渡り、いつまでも心の中に残っていきます。ふと、ああそうだった、昔の日本もこうだったと思う場面も何度かあります。

物語は、一九八〇年代の中国湖南省の山岳地帯で郵便配達をする父子の話です。その日父は引退し、息子は初めての配達に出ます。父と一緒に仕事に出ていた「次男坊」は息子には同行してくれませんが、仕方なく父は息子に同行し、「次男坊」を息子になれさせようとしています。二泊三日120kmの旅、全て徒歩です。一日40kmを歩き幾つもの村をまわりまわす。父はこの仕事の中で妻となった女と知り合い、この息子が生まれたのです。父の仕事での一番の感動は、息子が生まれたときに届いた妻から父への手紙。配って歩くだけの人生でただ一度だけ自分に手紙が届いたときでした。父は、生涯そのことを忘れず自分が郵便配達であることに誇りを持ち、大きな責任を背負って山を歩いてきたのです。

この映画の二泊三日の旅の間に父は息子にその誇りと責任を静かに伝えていきます。いつも仕事で家にいなかった父に馴染めなかつた息子も初めて仕事に出て、地域の人たちの父への信頼を目の当たりにして、改めて、父の偉大さを知るのです。

この父子は倅せです。息子は父の跡を継ぐのですから。父の苦勞、仕事の重さを身を持って知るのですから。

今の日本で一体どれくらいの人々が自分の仕事に責任と誇りを持っているでしょうか。大きな流れにただ流されて一番大切な人間性を見失ってはいないでしょうか。

この映画は、そんなことを問いかけてきます。蛇足ですが、犬の名前「次男坊」は中国における一子政策の反映と思われま



(府職労洛南病院分会 M)

トークプラザ

厳しい状況の中、毎日バタバタしながらもがんばっています。「ちょっとひと味」は必ず見て、楽しみにしています。「映画の窓」に載っていたダンサーインザダーク、私も観ました。何とも言えない悲しい気持ち、やりきれなさを感じました(ダンスの場面は、すごくよかったけど)いつも楽しい紙面、心待ちにしています。これからもがんばってください。

鎌田まゆみ(第二日赤労組)

10月で定年です。長い間お世話になりました。

藤江高子(民医労東支部)

庭に植えてあるパセリとブルーベリーが何者かに茎だけにされてしまいました。犯人は、なかなか姿を見せませんが、先日やっと見つけました。鉢の裏にひそんでいたナメクジです。空き地に逃がしてやりました。

那倉まゆみ(民医労上京支部)

忙しい外来です。毎日元気にがんばっています。

関婦沙子(健保労組京都支部)

「ペイフォワード〔 possible の王国 〕」は、私も観ました。いい映画だったと思います。今年に入って、6月までの間10本の映画を見ました。おすすめは「スターリングレード」かな?この夏も観たい映画がいっぱい!どれから見ようかな。

辻 睦美(西山病院労組)

病棟では、毎月おなじみとなりましたスタッフで行く「お食事会」があります。今月は創作フレンチに決まりましたが、いつも何処へ行こうかとみんなでわいわいと計画しています。素敵なお店がありましたら、みなさん教えてください。

小澤昌代(民医労東支部)



民医労東支部の下工垣 陽子さんから届いたイラストです

フォト通信

6/8 - 10、友達5人と2泊3日の尾瀬登山にでかけました。生まれてはじめてみる尾瀬の光景は、群生しているミズバショウ、白樺林そして雄大な火打ち岳や至仏山とまるでキャンパスに描かれている風で、日本にこんな美しいところがまだあったのかとあらためて驚き感動そのものでした。この景観を守るために多くのボランティアが協力していることも印象に残りました。(全医労京都病院支部 山崎典子)



京都市民医労40周年企画第2弾(手づくり絵本、バイキング、「金八先生から世界へ」小山内美江子講演)を行いました。子供たちを含め、100名を超える参加者で楽しい一日を過ごしました。「できるの?」と不安そうな顔も次第に夢中になり、ステキな絵本ができました。子供たちの自由な発想に感動しました。

労働法、労組法は大変勉強になりました。「『法律』は生きた法律にしてこそその力を発揮する」ということばをかって耳にしたことがあります。今回の講義はまさにそれでありました。法を社会悪の武器にすること、その武器を体得できた講義でした。

民医労東 柳生剛志

京都医労連 第1回 ニューリーダー養成講座

6/22から3日間、はじめて取り組まれたニューリーダー養成講座、ちょっときびしい日程。でも、医労連のたまたかの歴史や社会保障から哲学や経済学など充実した学習に模擬交渉・ワークショップと多彩な企画。参加した青年達の感想を聞きました。



学習に必要なもの(体力・時間・空間)と言われ、今私の中でこの3つともかけているような気がした。民主主義、今まで2年間活動してきた中で分かっていたのが、再度問い直すいい機会となった。

民医労西支部 関山美幸

久しぶりのディスカッション楽しめた。人が何を思っているのか、こういう場でないと知る機会がない。ましてや職場も違う人が、何を思っているのか知れたので、それは収穫かなと思います。(でも自分はあまり話せなかった。反省-----)

博愛会労組 藤田恭成

編・集・部・だ・よ・り

職場が換わって2ヶ月が過ぎました。新しい地域・患者さん・仕事不安な中にも新鮮な驚きや感動が続いています。「今日は何が起ころのかな?何ができるかな?」と大きな不安と少しの期待しながら、仲間の励ましと協力・理解に助けられ毎日が過ぎていきます。

「MESO」の編集に関わり始めて?年経ちますが、毎号で作り上げるこの大変さと出来上がったことの喜び、配布した時の組合員の反応が気になります。

いずれにしても自分への課題を受け止めることは簡単なことばかりではないですが、「みんなで行動すること」で解決していきたいと思うこの頃です。

あなたも編集委員会に参加しませんか?

(I)

